

## (28) 貝毒対策としての海底耕耘効果調査

### 予算

貝毒対策としての海底耕耘効果調査

### 概要

大阪湾東部海域（大阪府海域）では麻痺性貝毒原因プランクトンの増殖規模は年々拡大し、2006年には底曳き網漁業で重要な漁獲物であるアカガイで、2007年にはトリガイで初の毒化事例が確認された。近年では両種がほぼ毎年毒化するとともに毒化期間も長期化し、2018年には半年以上出荷自主規制の措置が執られた。そのため、麻痺性貝毒による漁業被害を防止するための早急な対策が求められている。そこで、貝毒が発生する前（1月下旬～2月）に海底に沈んでいる無毒な珪藻（プランクトン）を海底耕耘により巻き上げ・増殖させ、競合によって貝毒原因プランクトンの増加を抑制することが可能か効果を検証した。耕耘前、耕耘後の調査結果から、海底耕耘は局所的には効果が期待できる可能性があるが、湾全域の増殖を抑えようとするためには①時期を早めて複数回の実施、②耕耘規模の拡大、③初期増殖海域の見極めが必要と考えられた。

### 担当者

山本圭吾、上田真由美